

【 第32回オリンピック(東京2020) 】

2021年7月24日～8月8日 日本・東京

試合結果報告 7月28日 (水)

JAPAN	vs	エジプト
11	1st	18
18	2nd	15
	ex	
	ex	
29	TOTAL	33

個人得点

No.	NAME	1st	2nd	ex	ex	TOTAL
10	杉岡 尚樹		1			1
12	岩下 祐太					0
13	笠原 謙哉					0
15	部井久アダム勇樹		1			1
18	成田 幸平		1			1
19	徳田 新之介	3	5			8
20	渡部 仁	1	4			5
21	土井レミイ杏利	3				3
22	坂井 幹					0
25	元木 博紀					0
31	吉野 樹	2	2			4
33	東江 雄斗		4			4
38	水町 孝太郎	1				1
43	吉田 守一	1				1
TOTAL		11	18	0	0	29

戦況

アフリカ大陸チャンピオン、2021年世界選手権7位のエジプト代表と対戦。前節のスウェーデン戦同様、日本の攻撃は、プレーメーカーに部井久、渡部と吉野がバックコート、元木と土井がサイド、ポストに笠原の布陣。守備は、GKに岩下、笠原をセンターDF、部井久をトップDF、2枚目DFに渡部と成田、1枚目DFに元木と土井を配置した「5-1DF」でゲームスタート。

エジプト代表は個人技から得た7mTのチャンスを、ブンデスリーガでも活躍したベテランのキャプテンEl-Ahmarが落ちて決めて先制。日本は前半6分、ようやく吉野の速攻で初得点。立て続けに土井も速攻を決める。その後、日本代表は攻撃でテクニカルエラーを頻発させてしまい、また、DFでは強いフィジカルを生かしたエジプト代表の個人技に対応出来ずに失点を重ねてしまう。GK岩下の好セーブと今大会初出場の東江のゲームメイク等で試合の流れを呼び戻すことに傾注する。しかし、Zein (Barcelona) や Omar (Veszprem) など、欧州ビッグクラブでプレーする選手を中心に攻撃を組み立てるエジプトに徐々に点差をつけられていく。

日本は7人攻撃で対応するも、エジプト代表のラインプレーヤーを利用した攻撃に退場者を出してしまい、11-18の7点ビハインドで前半を終了する。

ハーフタイムでは、OF時のポイントと速攻のシステムを再度確認し、さらにはもう一度全員でチームの士気を高めて後半に臨む。

後半開始後は一進一退の攻防が続くが、5分過ぎから渡部のカットインやミドル、東江のカットイン、東江のリードから部井久のディスタンスなどで、徐々に点差を詰めていく。19-24と5点差まで追いつけたところで、エジプトはタイムアウトを請求。日本に傾いた流れを止めにかかる。しかし、すかさず東江のリードから徳田新のカットインで20-24と4点差に詰め寄る。エジプトもZeinからピボットShebibにパスが通り得点、日本は杉岡が技ありのループを決める。しかし、エジプトもOmarの得点で日本を突き放しにかかる。日本は6-0DFと5-1DFを使い分けながら、フィジカルに勝るエジプトに対抗するが、前半同様に退場者を出してしまい、29-33の4点差で試合終了。

フィジカルで勝るアフリカチャンピオンのエジプトに対して、後半は互角以上の勝負が出来たことは一つの収穫だが、前半スタートから良いムードを作れず、リズムに乗れないまま前半戦を終えたことについては、今後の課題として残った。

ゲームの入り方をもう一度チーム内で徹底して、次のバーレーン戦に向けては、対戦国の分析や選手のリカバリーなどに時間を多く費やし、より良い状態で試合を迎えたい。

報告記入者 :

舎利弗 学